

要 旨

本研究は、道徳の時間において「私たちの道徳」を活用することで自己の生き方についての考えを深めることをねらいとした。具体的には、各教科の授業や体験活動の後に、ねらいとする道徳的価値について感じたり考えたりしたことを「私たちの道徳」に記入させておく。そして、道徳の時間において道徳的価値についての理解を深めた後に、感じたり考えたりしたことを付箋紙に書かせ、事前に記述していたことと比較させる活動を取り入れた。これにより、児童は自分の思いや考えの変容を実感し、今後の生活に向けて、課題や実践意欲をもつことができるようになってきた。

〈キーワード〉 ①「私たちの道徳」の活用 ②各教科等の授業や体験活動 ③一対一の対話活動

1 研究の目標

自己の生き方についての考えを深める児童を育成するために、他者と関わり、自分を見つめ直すための道徳教育用教材「私たちの道徳」の活用の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

今日、学校における心の教育の基盤となる道徳教育を充実させることは、これからの学校の役割として、強く求められている。そこで、心と体の調和の取れた人間の育成の観点から、道徳教育の充実について検討するため、道徳教育の充実に関する懇談会により「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)」がまとめられた。この中で、道徳の時間をはじめとする授業でより活用しやすいものへと改善する観点から、「心のノート」の改訂版である道徳教育用教材「私たちの道徳」が作成されることとなった。「私たちの道徳」は、「心のノート」と同様に、児童が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとしており、道徳の時間だけでなく学校の教育活動全体を通じて活用されることが期待されている。その特徴として、学習指導要領に示す道徳の内容項目ごとに読み物部分と書き込み部分とで構成されている。これにより、道徳の時間をはじめとする授業で活用しやすく、実践意欲を高めやすい教材になったといえよう。

これまでの自分自身の「心のノート」の活用について振り返ってみると、道徳の時間においては、導入や終末の段階に、読んだり書き込んだりすることにとどまり、その内容について話し合うなど意見交流の場がなかった。そのため、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせるところまで至らなかった。また、道徳の時間以外で活用することが少なく、学校の教育活動全体で触れた道徳的価値について考えたことを道徳の時間に深めたり、道徳の時間にねらいとする道徳的価値を実践意欲につなげたりするために活用できていなかった。

そこで、本研究では研究テーマ、研究課題を受け、道徳的価値の理解を深め、自分との関わりで道徳的価値を捉えさせる「私たちの道徳」を活用した指導の在り方を探っていきたいと考えた。小学校学習指導要領解説道徳編によると、「自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるように工夫すること」¹⁾とあり、自分の考えを表現させることや、考えを交流させることの必要性が示されている。各教科等の授業や体験活動後、「私たちの道徳」に書き込ませたものや、それと関連した資料を道徳の時間に活用し、対話活動のような他者との関わりをもたせることによって、改めて自分を見つめ直し、自己の生き方についての考えを深めることができると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

各教科等の授業や体験活動の後にねらいとする道徳的価値について感じたことや考えたことを「私たちの道徳」に記述させておき、展開段階において対話活動を通して道徳的価値について理解を深め、終末段階において記述したものと比較し、自分の思いや考えの変容を感じることができれば、ねらいとする道徳的価値に関わる課題や実践意欲をもつ児童を育てることができるであろう。

4 研究方法

- (1) 道徳の時間における「私たちの道徳」を活用した指導についての理論研究
- (2) 道徳的価値の自覚と道徳的実践意欲に関する考察
- (3) 授業実践を通して「私たちの道徳」の活用の手立ての有効性の検証および考察

5 研究内容

- (1) 「心のノート」の活用に関する理論研究を基に、道徳の時間における「私たちの道徳」を効果的に活用した指導の手立てを明らかにする。
- (2) 道徳の授業後、ねらいとする道徳的価値に関する意識について、児童の実態を調査し、変容を明らかにする。
- (3) 所属校の6年生における授業実践を行うことで仮説を検証し、手立ての有効性について考察する。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

道徳の時間の目標である道徳的実践力を育成するために必要なこととして、押谷は、「他の教育活動との関連を図ることも大切です。豊かな体験活動等を計画しながら、それとのかかわりで道徳の時間を考えていく。逆に道徳の時間が終わった後に、豊かな体験活動を考えてみるなど、いろいろな工夫がされています。これからは、各教科等の中での学習活動との関連を図ることをもっと重視する必要があります。……道徳の時間の学習と関連をもたせることによって、人間の在り方や生き方の自覚を深めることができます²⁾」と述べている。そこで、各教科等の授業や体験活動後に感じたことや考えたことを、道徳の時間において、ねらいとする道徳的価値との関わりで改めて見つめ直させることで、道徳的価値に関わる自分の課題に気付かせ、実践意欲につなげることが重要であると考えた。

- (2) 研究の全体構想

本研究では、児童の道徳的実践意欲を高めるために、道徳の時間において、道徳教育用教材「私たちの道徳」を活用する授業を構想することとした。まず、各教科の授業や体験活動の後に、ねらいとする道徳的価値について感じたことや考えたことを「私たちの道徳」に記入させておく。次に、道徳の時間における導入段階で、「私たちの道徳」に記述したことを振り返らせることで、体験したこととねらいとする道徳的価値のつながりを意識させる。次に、展開段階において、児童同士による

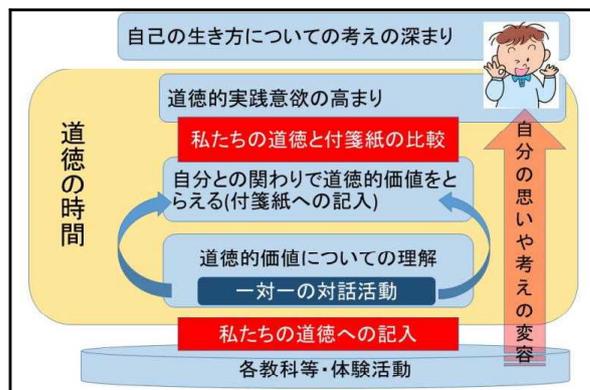


図1 全体構想図

一対一の対話活動を繰り返し、能動的に、自分の考えを相手に伝えたり相手の考えに対する意見をもたせたりすることで道徳的価値についての理解を深めさせる。そして、展開後段において、道

徳の時間にねらいとする道徳的価値について考えたことを付箋紙に書かせる。最後に、付箋紙に書いたことと、事前に「私たちの道徳」に書いていたことを比較させることで、自分の思いや考えの変容を感じさせることができ、道徳的実践意欲を高めることができると考えた。また、そうすることが、自己の生き方についての考えを深める児童の育成につながっていくと考えた(前頁図1)。

(3) 「私たちの道徳」の活用について

ア 「私たちの道徳」と付箋紙の使い方

各教科等の授業や体験活動後に、ねらいとする道徳的価値の内容項目の記述欄に感じたことや考えたことを書き込ませておく。そして、道徳の時間の展開後段において、「私たちの道徳」と同じ設問で、ねらいとする道徳的価値について考えたことを付箋紙に記述させる(図2)。次に、終末段階で、事前に「私たちの道徳」に書かせておいたものと展開後段で記述させたものを比較させることで、自分の思いや考えの変容を感じさせることをねらいとした。「私たちの道徳」と付箋紙の記述内容を比較させる場面では、付箋紙への記述内容で、付け加わったり変容したりした箇所に赤線を引かせた。「私たちの道徳」と活動後において、同じ設問で書かせたり付箋紙に赤線を引かせたりし、比較させることで、思いや考えの変容を認識できるようにした。

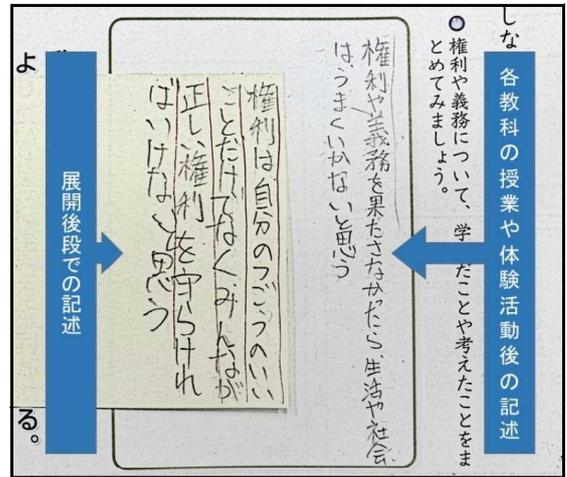


図2 「私たちの道徳」と付箋紙の使い方

イ 道徳的価値の理解を深める手立て

児童が、展開後段における付箋紙への記述に向けて、道徳的価値の理解を深めるために、展開前段において一対一の対話活動を取り入れた。まず、ワークシートに自分の考えを書く。次に、2人組を作り、お互いに自分の考えを伝え、相手のワークシートに、相手の考えに対する自分の意見を書く。そして、自分のワークシートに相手の考えについての自分の意見を書く。これを2～4回繰り返す。最後に、対話活動後の自分の考えを書く。このように、児童が、能動的に自分の考えや意見を伝えたり、友達の考えに対して意見をもったりすることで、道徳的価値についての理解を深めることができると考えた。

(4) 授業の実践

手立ての有効性を確かめるために、各教科の年間計画と行事計画を活用し、各教科の授業や体験活動に含まれる道徳的価値の中から授業で取り上げる内容項目を設定して授業計画を立て、検証授業を行った(表1)。

表1 対象学級(6年)における各教科の授業や体験活動と検証授業の概要

各教科等の授業・体験活動	修学旅行(10月)	いじめ・命を考える日(11月)	いずみ祭り(11月)	社会科「わたしたちのくらしと日本国憲法」(1月)	総合的な学習の時間「学校に恩返しをしよう」(1～2月)
検証授業	第1時(10月)	第2時(11月)	第3時(11月)	第4時(1月)	第5時(2月)
内容項目	節度・節制1ー(1)	生命尊重3ー(1)	役割・責任4ー(3)	権利・義務4ー(1)	愛校心4ー(6)
主題名	節度、節制を心がけて	自他の生命を尊重して	自分の役割を自覚して	法やきまりを守って	より良い校風を求めて
資料名	「ホームステイ」	「三日間の命の輝き」	「小川笙船」	「きまりは何のために」	「輝く鉄棒」
出典	小学校道徳読み物資料集(文部科学省)	「三日間 命の輝き」(スターツ出版)一部省略	「私たちの道徳」読み物資料	「私たちの道徳」読み物資料	自作資料

検証授業第4時の授業記録を以下に示す(表2)。本時のねらいは、「自他の権利を大切にし、進んで義務を果たそうとする心情を育てる」とした。読み物資料「きまりは何のために」を使い、主人公の2人が自分の都合のよいように権利を解釈する話を通して、正しい権利や義務について考えさせた。導入段階で、事前に「私たちの道徳」に書き込んでいたものを基に、社会科で学習した権利や義務について振り返りを行った。そして、中心発問において、一対一の対話活動を行った後、権利や義務について考えたことを付箋紙に書かせ、終末段階に事前に書いていたことと付箋紙の記述を比較させた。

表2 検証授業第4時の記録 資料名「きまりは何のために」

※破線の枠は本研究に関わる留意点、二重線部分は「私たちの道徳」に関わる発問、ゴシック体表記は抽出児の発言である。

	学習活動・◆主な手立てと留意点	T: 教師の発問 C: 児童の発言 A児・B児・C児: 抽出児の発言
導入	1. 社会科で学習した権利や義務について振り返る。 ◆日本国憲法に定められた国民の権利・義務とは、どんなものだったかを振り返り、誰もが守らなければならないことを確認する。	T 社会科で権利や義務を学習して、どんなことを考えましたか。 <u>「私たちの道徳」を見ながら発表してみましょう。</u> C 権利や義務という言葉は知っていたけど、意味を初めて知った。 C 自分の権利や義務を押し付けたり主張したりするのはだめだと思う。 T 権利とは、していいことやできること。義務は、しなければならないことやしてはならないことでした。
展	2. 「きまりは何のために」の資料を読み、話し合う。 ◆二人の言う権利が、自分達に都合のよい解釈であり、権利の曲解であることに気付かせる。 ◆明や鉄男が、自分勝手な理由で1年生がもつ権利を奪っていたことに気付かせる。 ◆権利とは、どんなものだったか再確認させる。	T 今日、この権利や義務について、みんなで考えたいと思います。 T 明と鉄男は、「遊ぶ権利」や「買う権利」と言っていますが、2人は、権利をどんなものと考えているでしょう。 C 自分にとっていいこと。 C 自分に都合のいいもの。 T この2人が言っている「遊ぶ権利」や「買う権利」というのは、誰が決めたものですか。 C 自分達。 C 2人。 T 鉄男は「1年生が安全に遊ぶ権利」と言っていますが、鉄男は、権利をどんなものと考えているでしょう。 B児 みんなに平等にあるもの。 C みんなに認められたもの。 T 鉄男が言っている「1年生が安全に遊ぶ権利」は、誰が決めたものですか。 B児 代表委員会。 C みんな。
	◆二つの権利の違いについて明確にすることで、お互いに権利を尊重することの大切さや、権利には義務が不可欠であることを理解させる。	T 最初の「遊ぶ権利」や「買う権利」の「権利」と「1年生が安全に遊ぶ権利」の「権利」の考え方で、正しい権利の考え方は、どちらでしょう。 C 「1年生が安全に遊ぶ権利」の「権利」の考え方。 T この2つの権利の違いは、どんなところでしょう。 (一対一の対話活動) T 対話活動をやって、付け加わったり変わったりしたところがある人はいますか。 C 自分達で考えた権利と、みんなのことをよく考えて作った権利になりました。初めは「みんなで考えた」の部分が「みんなのことをよく考えて作った」に変わりました。友達のを聞いて、そっちがいいと思って変えました。 C 「明や鉄男の言う権利は、自分にとっていいことだけど、1年生の遊ぶ権利はみんなに権利がある」が「明や鉄男の言う権利は、自分勝手、1年生が遊ぶ権利は、みんな平等にある」に変わりました。友達のを聞いて変えました。
	◆資料の中の義務に目を向けることで、権利の裏には必ず義務があり、義務のない権利はないことを理解させる。 ◆自他の権利を尊重することやその裏にある義務を遂行することでみんなの権利が守られることを理解させる。	T 今日資料には、権利のことを中心に書かれていましたが、この資料の中に、どんな義務があると考えられますか。 C 時間を守る義務。 C 遊んだボールを片づける義務。 T きまりは、何のためにあるのでしょうか。 B児 守るため。 T 何を。 A児 正しい権利を守るため。 T では、正しい権利を守るために、必要なことは何でしょう。 C きまりを守ったり義務を守ったりすること。 T きまりや義務を守ること、権利は守られるのですね。 T 権利や義務について、学んだことや考えたことを付箋紙に書きましょう。
3. 権利や義務についてまとめる。 ◆事前に「私たちの道徳」に記述させたときと同じ発問で再度記述させる。また、記述内容で変化した部分に赤線を引かせることで、自分の思いや考えの変容を認識させる。	T <u>事前に「私たちの道徳」に書いていたことと比べてみましょう。付け加わったり、考えが変わったところに赤線を引きましょう。</u> T <u>比べてみて感じたことや考えたことを書きましょう。</u> C児 まわりのことを考えて行動しないといけないと思いました。 C よくよく考えてみると、権利や義務は、自分自身やみんなのことを守るためにあることが分かった。 T 正しい権利には義務がセットでついているのですね。逆に言うと、義務のないところに権利はないのですね。 T 最後に、権利や義務についての格言を紹介します。 「義務が権利をつくり出すのであって、権利が義務をつくり出すのではない。」	
終末	4. 権利や義務についての格言を知る。 ◆児童でも理解しやすいように、権利や義務の大切さを端的に表した格言を紹介することで、実践意欲を高めさせる。	



(5) 授業についての考察

授業について考察するにあたり、検証の視点を設定する。

【検証の視点Ⅰ】 一対一の対話活動による道徳的価値についての理解の深まり

【検証の視点Ⅱ】 授業前と展開後段の記述内容の比較による道徳的価値実現への意欲の高まり

ア 一対一の対話活動による道徳的価値についての理解の深まり(検証の視点Ⅰ)

(ア) 道徳的価値についての理解を構成する観点を基にしたワークシートの記述内容の分析

一対一の対話活動による道徳的価値についての理解の深まりを検証するために、以下の観点に基づいて、児童のワークシートにおける対話活動前後の記述内容の変化を分析した(表3)。

表3 道徳的価値についての理解を構成する観点

① 価値理解…道徳的価値は大切であること
② 人間理解…道徳的価値は大切であるが実現は難しいこと
③ 他者理解…道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があること

①価値理解のある記述とは、例えば、節度・節制の内容項目において、持っているにも関わらず新しい物を欲することに対して、「流行なんてかんけいないんだ」のように、節度の大切さについて記述されているものである(図3①)。②人間理解のある記述とは、例えば、役割・責任の内容項目において、役割・責任の大切さは理解しているものの、「やめたいけれど、やめれば数百人の命が失われる」のように、人間の弱さにも言及しているものである(図3②)。③他者理解のある記述とは、友達との対話活動を通して、今まで気付かなかった価値に気付き、自分のもともとの記述に加え、新たな価値を付け加えたものである。これらの観点を基に、道徳的価値についての理解の深まりを検証した。児童の記述内容に観点が增多ることが、道徳的価値についての理解の深まりとした。

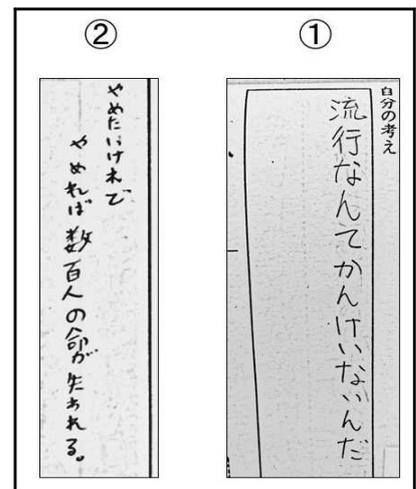


図3 ①価値理解・②人間理解の記述例

以上の道徳的価値についての理解を構成する3つの観点を基に、一対一の対話活動前後で、どの観点が含まれるか児童のワークシートの記述内容を分析した(表4)。第4時では、対話活動の前後で観点が增多た児童は、73%(22名)、第5時では、33%(10名)であった。第5時では、葛藤場面の主人公の心情について考えさせた。まず、主人公が、葛藤場面において、「作業を続けよう」とする気持ちが強い場合はA、どちらかというところ「作業を続けよう」という場合はB、どちらかというところ「サッカーをしよう」という場合はC、「サッカーをしよう」とする気持ちが強い場合はDと4つに類型化した(次頁図4)。そして、児童に、主人公の立場を選択させた後、その心情について考えさせた。立場の選択は、対話活動後も行った。DからAの方へ立場を移動した場合を、よりよい立場に移ったものとした。対話活動前

表4 一対一の対話活動の前後での変容

第4時「きまりは何のために」		
前	後	人数
①	①	8
①	①, ③	22
第5時「輝く鉄棒」		
前	後	人数
①	①	8
②	②	4
②	①	2
①	①, ③	6
①	①, ②	1
①, ②	①, ②	5
①, ②	①, ③	1
②	①, ②	1
②	①, ②, ③	1
①, ②	①, ②, ③	1

※ 表中の丸数字は、表3の3つの観点を表したものである。

は、AとBを選んだ児童がそれぞれ、38% (11名)と26% (8名)だったのが、対話活動後は、44% (13名)と33% (10名)となった。また、よりよい立場に移った児童が20% (6名)であった(図5)。

このことから、一対一の対話活動を行うことにより、道徳的価値についての理解の観点が増えたり、よりよい価値観をもてるようになったりするなど、道徳的価値についての理解が深まったと考える。

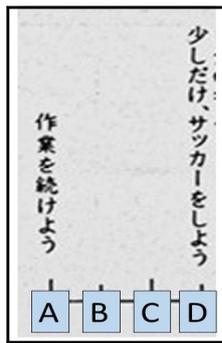


図4 類型化

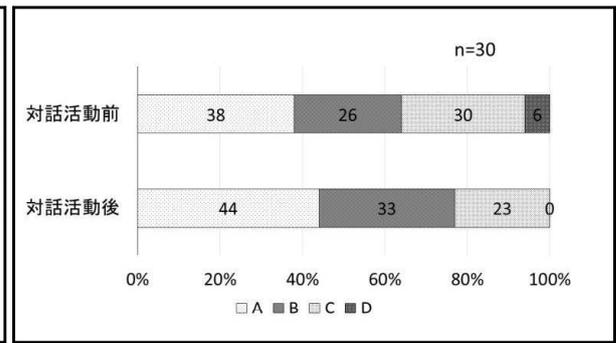


図5 対話活動前後の立場の変化

(イ) B児の記述内容の分析

B児は、普段の生活の中で自分の仕事には、きちんと取り組まなければならないということは理解しているものの、つい自分のやりたいことに意識が向きがちなる傾向が見られる児童である。第4時までの一対一の対話活動において、なかなか自分から友達に声をかけることができず、誰と対話活動をしてよいか分からないという理由で活動に消極的であったが、第5時では、

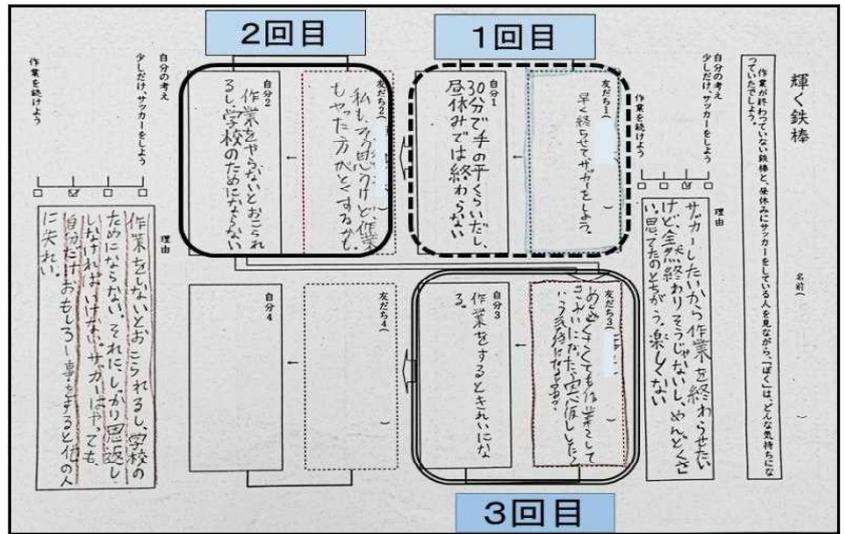


図6 B児のワークシート

自分から3人の友達のところへ行き、対話活動をすることができていた。そこで、第5時のB児のワークシートを基に分析した(図6)。対話活動の前は、「サッカーをしたいから、作業を終わらせたいけど、めんどくさい。思っていたのとちがう。楽しくない(価値理解・人間理解)」としていた。対話活動の経過を見てみると、1回目の対話活動で、友達の考えと「早く終わらせてサッカーをしよう」という友達の意見に対し、「昼休みでは終わらない」という意見をもった。2回目では、友達の考えと「私も(B児の考えを)そうだと思うけど、作業をやったほうがとくするかも」という友達の意見に対して、「作業をやらないとおこられるし、学校のためにならない」という考えをもっている。さらに、3回目では、友達の考えと「めんどくさくても、作業をしてきれいになったら恩返ししたという気持ちになるよね」という友達の意見に対して、「作業をするとききれいになる」という意見をもっている。そして、最終的な考えとして、「作業をしないと、おこられるし、学校のためにならない。しっかり恩返ししないといけない。サッカーをやっても、自分だけおもしろいことをすると他人に失礼(価値理解・他者理解)」と書き込んでいる。対話活動の前後を比較すると、「サッカーをしたいから、作業を終わらせたい」という自分の欲求を満たすために作業に取り組むという意識から「学校のためにならない。しっかり恩返ししないといけない」という、学校のために作業に取り組むという意識の変容が見られた。

(ウ) C児の記述内容の分析

C児は、アンケートやワークシートに自分の考えを記述することを面倒だと思い、なかなか記述しようとしないう傾向が見られる児童である。C児のワークシートを基に分析した。第4時の対話活

動の前には、「自分の遊ぶ権利より一年生が遊ぶ権利が正しいと思う(価値理解)」と書いていた。1回目の対話活動では、相手の考えと変わらなかったようであるが、2回目の対話活動では、相手の考えと自分の考えに対する意見を聞いた後、「正しい権利は全員で決めたこと」という考えに気付いている。そして、最終的な考えとして「正しい権利は全員で決めたことだけど、正しくない権利は自分で決めたこと(価値理解・他者理解)」と書いていた。対話活動の前の段階では、正しい権利と判断する理由を示すことができなかつたが、対話活動後は、その判断理由に気付くことができていた。つまり、対話活動を通して、他者の考えを理解し、自分の考えに取り入れることができたといえる。

(エ) 第5時の後の学級全体の意識調査の結果

第5時の後に、一対一の対話活動について、児童への意識調査を行った。「対話活動をしてみて、よかったことは何か」を複数回答で答えさせたところ、「友達の考えが聞ける」が86%(25名)、「友達が意見を書いてくれるので、よりよい考えに気付ける」が66%(19名)、「自分の考えを友達の考えと比べることで、考えの違いが分かる」が59%(17名)という結果が得られた(図7)。

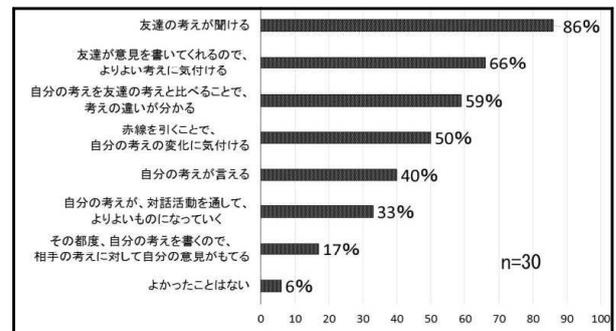


図7 対話活動のよかった点

以上のことから、児童同士が一対一の対話活動で、自分の考えや友達の考えに対する意見を伝え合い、ワークシートに記述していくことで、自分では気付けなかつた道徳的価値の能動的な理解につながったと考えられる。また、第5時では、自分と違う考えの人を選んで対話活動を行わせた。自分とは違う考えに触れることになり、結果的に、道徳的価値についての理解が深まったと考えられる。また、葛藤場面を扱う際、一対一の対話活動の前に、考えを類型化し板書で可視化することは、活動に消極的だった児童も積極的に友達と関わることができるようになり、道徳的価値についての理解を深めることに有効であったと考える。

イ 授業前と展開後段の記述内容の比較による道徳的価値実現への意欲の高まり(検証の視点Ⅱ)

(ア) 学級全体の意識調査の結果

第4時の前と第5時の後に行った児童への意識調査を見てみると、「事前に『私たちの道徳』に書いていたことと付箋紙に書いたことを比べたとき、違いに気付いたか」という問いに、「はい」と答えた児童は、第4時の前には23%(7名)だったのに対して、第5時の後には70%(21名)に増加していた(図8)。これは、比較する際に、第4時・第5時では、事前に「私たちの道徳」に記述したものを見ずに同じ設問で書かせたり、付け加わったり変容したりした部分に赤線を引かせたりすることで、その変容を視覚的に確認できたからだと考える。また、「事前に『私たちの道徳』に書いていたことと付箋紙に書いたことを比べることで、これからがんばろうという気持ちをもてたか」という問いに、「もてた」「どちらかというともてた」と答えた児童は、

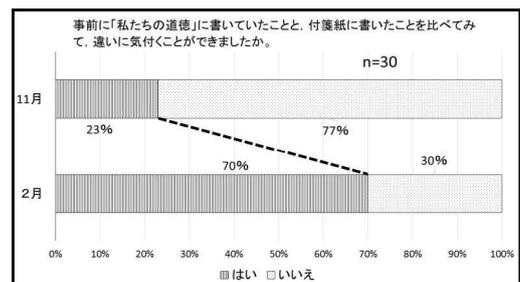


図8 変容への気付き

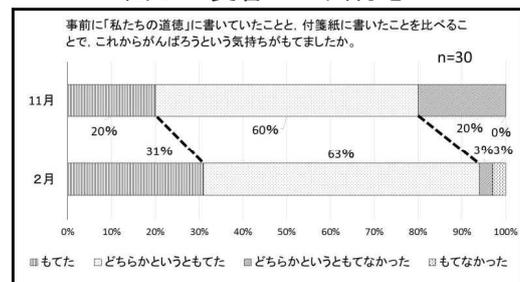


図9 実践意欲の高まり

11月には80%(24名)だったのが、2月には94%(27名)であった(図9)。さらに、「事前に『私たち

の『道徳』に書いていたことと付箋紙に書いたことを比べることで、これからがんばることが見付かったか」という問いには、「はい」と答えた児童が、11月には46% (14名) だったのが、2月には93% (27名) であった (図10)。これは、授業前と授業中の両方で、自分にできることを考えさせる「私たちの道徳」の設問を活用したことで、自分の変容に気付き、児童の意識の高まりとなって表れたと考える。

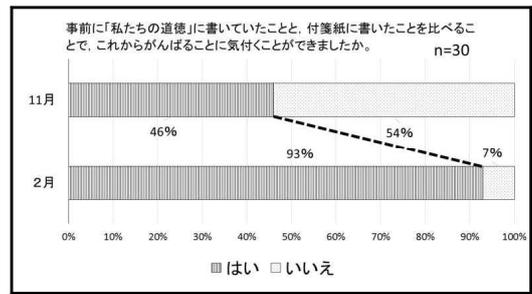


図10 具体的な実践への気付き

(イ) 「私たちの道徳」と付箋紙への記述内容の比較

「私たちの道徳」と付箋紙への記述内容と両方を比較したときの児童の感想や考えたことを基に価値実現に向けての意欲の高まりについて分析した。まず、付箋紙と児童の感想や考えたことの記述内容を、①道徳的心情の高まり、②道徳的価値の自分との関わりによる理解、③課題意識をもった実践意欲の3つの観点に分けて分析した。①道徳的心情の高まりのある記述とは、「義務やきまりを守らないといけないなと思いました」のように、道徳的価値に対する思いが表れたものとした (図11①)。②道徳的価値の自分との関わりによる理解のある記述とは、「授業前は、自分のためにもならないのに、なぜそんな事に一生けんめいにならないといけないのかわかりませんでした」のように、道徳的価値を自分との関わりで捉えたものとした (図11②)。③課題意識をもった実践意欲のある記述とは、「私は残りの時間までに体育館のゆかのテープのほりかえをしたい」のように、具体的な行動のある意欲が表れたものとした (図11③)。

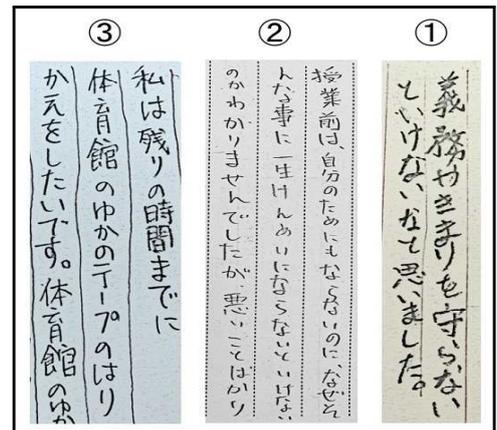


図11 付箋紙等への記述例

第4時での、「私たちの道徳」への記述では、①心情の高まりの記述が見られた児童は、21% (6名) から47% (14名) に増え、③課題意識をもった実践意欲の見られる記述や複数の観点で記述した児童が3% (1名) ずつ見られた (図12)。第5時では、③課題意識をもった実践意欲の見られる記述は、34% (10名) から53% (16名) と増加し、複数の観点で記述した児童が3% (1名) から17% (5名) に増加していた (図13)。

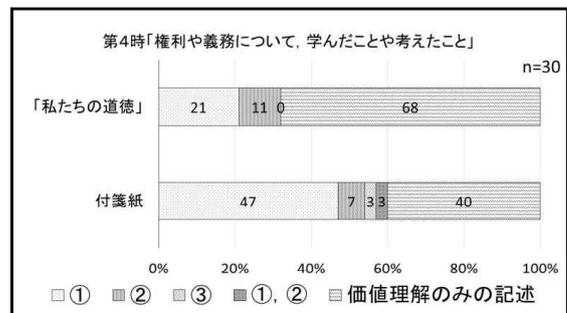


図12 「私たちの道徳」と付箋紙の比較①

このことから、事前に「私たちの道徳」に記述させたときと同じ設問で、道徳的価値についての理解が深まった段階において、もう一度自分の考えを付箋紙に記入させたことによって、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで理解し、今後の生活に向けて、思いや課題をもつことができるようになったものとする。

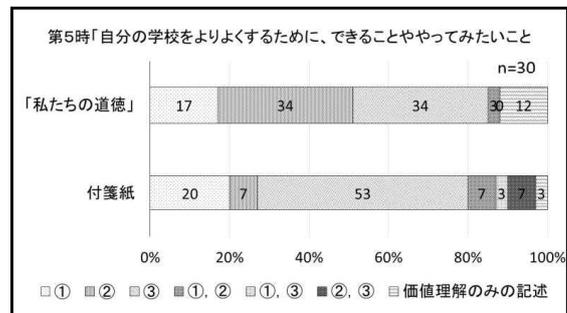


図13 「私たちの道徳」と付箋紙の比較②

(ウ) A児の記述内容の分析

A児は、事前アンケートの結果から「もっとよい自分になりたい」という気持ちはもっているものの、実践には移せないでいると意識している児童である。A児の「私たちの道徳」と付箋紙の記

述の変容を検証した(図14)。第5時の授業前の「私たちの道徳」の記述では、「自分の学校をより良くしていくために、どんなことをしてきましたか。また、あなたにできること、やってみたいことを書きましょう」という設問に対して、「縦割りでの活動を増やせば、違う学年との交流も増やせると思う」と学校の縦割り活動の進め方への意見を書いていたが、付箋紙には、「なにげなくやっているそうじも、学校をきれいにするために行われていることだった。毎日のそうじも学校に

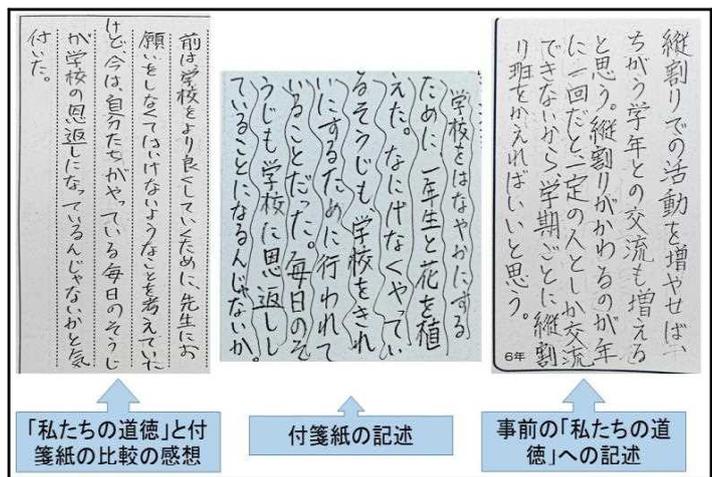


図14 A児の記述内容

思返していることになるんじゃないか」と自分の活動に結び付けて考えるようになっていた。また、記述内容を比較した感想では、「前は、学校をよりよくしていくために、先生にお願いをしないでいいかな」と、これからの課題意識をもった実践意欲を示していた。このことから、事前に「私たちの道徳」に記述しておいたことで、自分の考えを振り返ることができ、付箋紙に記述した内容と比較させることで、自分の変容を感じることができたと考える。それにより、学校をよりよいものにしたいという意識はあったものの、具体的に何をすればいいか明確ではなかったが、これまでの自分の活動の中にも価値ある活動があることに気づき、実践意欲をもつことにつながったのではないかと考える。

(エ) B児の記述内容の分析

B児の「私たちの道徳」と付箋紙の記述の変容を基に検証した(図15)。第4時の授業前の「私たちの道徳」の記述では、「権利や義務について、学んだことや考えたことをまとめてみましょう」という設問に対して、「権利ばかり主張しながら、義務を果たさないで、他の人の義務や権利をうばったりするのは何もうまくいかない」と記述していたが、これは、「私たちの道徳」の記述欄のそばに書かれていた文章と同じ内容であった。

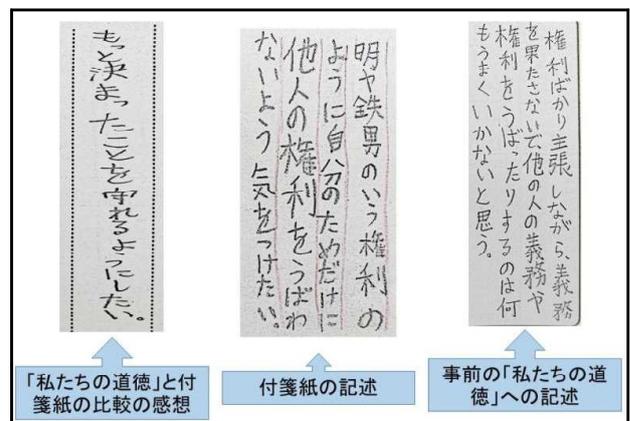


図15 B児の記述内容

付箋紙には、「明や鉄男のいう権利のように自分のためだけに他人の権利を奪わないように気を付けたい」という心情の高まりが見られた。さらに、記述内容を比較した感想では、「(今までは守れていなかったけれど)もっと決まったことを守れるようにしたい」と新しい道徳的価値のある行為に気づき、これからの生活での課題意識をもった実践意欲が記述されていた。このことから、B児は、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで捉えることができ、今後の生活への課題意識をもつことにつながっていったのではないかと考える。

(オ) C児の記述内容の分析

C児は、事前アンケートで今の自分を振り返り、「できていないところに気付くことがあるか」、「こんなことを頑張ろうと思うことがあるか」の問いには、どちらも「ない」と答えていた。C児の「私たちの道徳」と付箋紙の記述の変容を基に検証した(次頁図16)。第4時の「私たちの道徳」への事前の記述では、「権利や義務にはいろいろある」と「私たちの道徳」の記述欄の上に書かれ

ていたことや社会科で学習して分かったことが記述されていた。付箋紙を見ると、「義務やきまりを守らないといけないなと思いました。周りの人のことも考えないといけないなと思いました」とあり、ねらいとする道徳的価値への心情の高まりが示されていた。そして、記述内容を比較した感想では、「周りの人のことも考え、義務やきまりを守らないといけないなと思いました」と付箋紙への記述内容と同じことが書かれていた。このことから、

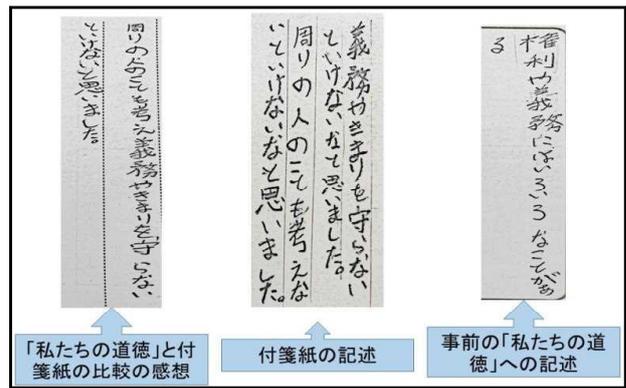


図16 C児の記述内容

から、C児は、事前に「私たちの道徳」に記述していたことと付箋紙への記述を比較することで、権利や義務に対する曖昧な意識が、権利や義務を守らないといけないという意識に高まっていることに気付くことができたのではないかと考える。

以上のことから、事前に「私たちの道徳」へ記述させておいたものと、展開後段にねらいとする道徳的価値について考えたことを付箋紙に記述させたものを比較させることは、個人差はあるものの道徳的価値への意識が高まり、道徳的価値実現への意欲をもつことにつながったと考える。

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ・ 授業の展開段階で、お互いに考えや意見を書き込むワークシートを用いたり、価値を類型化して板書したりして、一対一の対話活動を行うことは、能動的な交流につながり、道徳的価値についての理解を深めることに有効であった。
- ・ 「私たちの道徳」の1つの設問で、各教科等の授業や体験活動の後と道徳の時間に感じたことや考えたことを書かせ、付け加わったり変化したりした部分に赤線を引かせて比較させたことは、児童が、自分の変容に気付くだけでなく、今後の生活への課題をもち、道徳的实践意欲をもつことに有効であった。

(2) 今後の課題

- ・ 内容項目や資料によって、一対一の対話活動を行う際に、道徳的価値についての理解の深まりに差が見られた。そこで、どのような内容項目や資料で、一対一の対話活動がより活性化し、有効であるか明らかにする必要がある。
- ・ 今回は「私たちの道徳」を導入や展開後段、終末段階で活用させ、道徳的实践意欲をもたせることをねらいとした。更に今後、児童が、道徳的価値についての理解を深め、それを主体的に把握した上で道徳的实践に結び付けていく方法を考える必要がある。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 道徳編』 平成20年 東洋館出版 p. 95
- 2) 押谷 由夫 『道徳教育新時代』 1997年 国土社 p. 126

《参考URL》

- ・ 文部科学省 『今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/_icsFile/afieldfile/2013/12/27/1343013_01.pdf (平成25年12月)